

(2016年度)

2 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は18ページ, 4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで, 問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に, 試験監督者から指示があったら, 解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し, 所定の欄に氏名を記入すること。次に, 解答用紙の右側のミシン目にそって, きれいに折り曲げてから, 受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し, 机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら, この問題冊子が, 上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は, HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能, 計算機能, 辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は, 解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで, そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき, マーク欄からはみ出したり, 白い部分を残したり, 文字や番号, ○や×をつけたりしてはならない。また, マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は, 消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり, 破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章を読んで、問(1～10)に答えなさい。

君主制国家にとって、君主位の継承は国制の根幹に関わる事柄である。ヨーロッパの歴史において、その継承原理は選挙と世襲の二つに大別できる。実際には、血縁者のなかから次期君主が選出されるなど、二つの原理はしばしば併用されており、継承の実態は複雑であった。

ローマ帝国では、皇帝即位には元老院の推薦が必要とされており、世襲が基本原理になることはなかった。ローマ帝国の継承者を自任する国家のうち、(1)においては、初期には選挙もおこなわれていたが、おそくとも11世紀までには世襲が定着する。一方、(2)では、(3)が発した(4)を経て、選挙が制度化されてゆく。

これら以外の王国をみると、東ヨーロッパでは、⁽¹¹⁾ハンガリー、⁽¹²⁾ポーランドなどで15世紀に選挙制がはじまっている。西方の⁽¹³⁾イギリスや⁽¹⁴⁾フランスでは、⁽¹⁵⁾血統原理が基本であり、選挙はほとんどおこなわれなかった。

いずれの場合でも、円滑な継承ができるか否かは国家の存亡を決する問題であった。先に挙げた(4)は(5)以来の混乱状況を背景に発されたものであった。近世以降も、⁽¹⁶⁾ヨーロッパでは君主位の継承をめぐる争いがいくども起こっている。1870年にはじまる(6)戦争も、その発端は、(7)家出身の人物が(8)の王位に即くことをめぐる問題にあった。

問1 文章中の空欄(1～8)に入る語としてもっとも適切なものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- | | | | |
|-------|-----------------|---|----------------|
| (1) a | カロリング朝フランク王国 | b | 神聖ローマ帝国 |
| c | ビザンツ帝国(東ローマ帝国) | d | メロヴィング朝フランク王国 |
| (2) a | カロリング朝フランク王国 | b | 神聖ローマ帝国 |
| c | ビザンツ帝国(東ローマ帝国) | d | メロヴィング朝フランク王国 |
| (3) a | カール大帝(シャルルマーニュ) | b | カール4世 |
| c | カール5世 | d | ユスティニアヌス1世(大帝) |

- (4) a 金印勅書 b ナントの王令(勅令)
c 大憲章(マグナ=カルタ) d 『ローマ法大全』
- (5) a アナーニ事件 b 教会大分裂(大シスマ)
c 「大空位時代」 d 百日天下
- (6) a デンマーク b プロイセン=オーストリア(普墺)
c プロイセン=フランス(普仏, ドイツ=フランス)
d ロシア=トルコ(露土)
- (7) a ハプスブルク b ブルボン c ホーエンツォレルン
d ロマノフ
- (8) a オランダ b ギリシア c デンマーク d スペイン

問2 下線部(9)に関連して、古代ローマについて述べた文として誤っているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ドナウ川以北の支配地であったダキアは、ほぼ現在のルーマニアに相当する。
- b トイトブルク森の戦いに勝利したことで、ブリタニアを征服した。
- c 前2世紀末には、現在のギリシアにあたる地域を支配していた。
- d カエサルが征服したガリアは、ほぼ現在のフランスに相当する。

問3 下線部(10)に関連して、古代ローマの元老院について述べた次の文(ア、イ)の正誤の組み合わせとして正しいものを、下の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- ア ホルテンシウス法によって、平民会の決議が国法になるには元老院の認可が不可欠であると定められた。
- イ オクタウィアヌスに「アウグストゥス」の称号を付与した。
- a アー正 イー正 b アー正 イー誤
c アー誤 イー正 d アー誤 イー誤

問4 下線部(1)に関連して、10世紀末頃にハンガリー王国を建てた集団の名としてもっとも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a チェック人 b タタール人 c スラヴ人 d マジャール人

問5 下線部(2)に関連して、ポーランドの歴史について述べた文として誤っているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 14世紀にリトアニア＝ポーランド王国が建国された。
b ヤゲウォ朝が18世紀に断絶したため、ポーランド分割を招いた。
c コシューシコはアメリカ独立革命に参加した。
d 第一次世界大戦後、バルト海沿岸地域がドイツから割譲された。

問6 下線部(3)に関連して、15世紀の出来事として誤っているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a イタリア戦争の勃発
b グーテンベルクによる活版印刷術の改良
c ダンテによる『神曲』の執筆
d トルデシリャス条約締結

問7 下線部(4)に関連して、イギリスについて述べた文としてもっとも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a アンボイナ事件によってモルッカ諸島を支配し、香辛料貿易により膨大な利益をあげた。
b 一連の戦争による財政赤字を埋めるため、18世紀半ば以降、北米植民地への課税を強化した。
c 19世紀半ば、フランスに先駆けて男性普通選挙を実現した。
d 19世紀後半、グラッドストーンはアイルランド自治法案を議会に承認させた。

問8 下線部(15)に関連して、フランスについて述べた文としてもっとも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a フロンドの乱を沈静化するため三部会が開催された。
- b ナポレオンは占領したプロイセンで農場領主制(グーツヘルシャフト)を進めた。
- c ナポレオン3世は清仏戦争を起こした。
- d ナチス・ドイツによるラインラント進駐に対し、フランスは武力干渉をおこなわなかった。

問9 下線部(16)に関連して、近世ヨーロッパの君主位継承をめぐる出来事が年代順に正しく並べられているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a イギリスにおけるステュアート朝成立 → スペイン継承戦争 → オーストリア継承戦争 → ファルツ戦争(アウクスブルク同盟戦争)
- b イギリスにおけるステュアート朝成立 → ファルツ戦争(アウクスブルク同盟戦争) → スペイン継承戦争 → オーストリア継承戦争
- c イギリスにおけるステュアート朝成立 → スペイン継承戦争 → ファルツ戦争(アウクスブルク同盟戦争) → オーストリア継承戦争
- d ファルツ戦争(アウクスブルク同盟戦争) → スペイン継承戦争 → イギリスにおけるステュアート朝成立 → オーストリア継承戦争

問10 国家元首や国制について述べた文として誤っているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a オーストリア=ハンガリー帝国は同君連合であった。
- b ルイ=ナポレオンはクーデタによって大統領に就任した。
- c ブラジルは帝国として独立した。
- d フランコの死後、スペインでは王政が復活した。

2 次の文章(I～Ⅲ)を読み、問(1～20)に答えなさい。解答は、選択肢(a～d)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

(I) 独立後のラテンアメリカ諸国の政治史は、アメリカ合衆国の発展と拡大の歴史と表裏一体をなす。アメリカ合衆国は19世紀に入ると、割譲や買収によって^(ア)内陸へと領土を広げ、その過程でメキシコ領に達するようになった。1830年代にはテキサスに入植していたアメリカ系住民の独立運動^(イ)が起り、40年代半ばにはアメリカ合衆国とメキシコの戦争に発展した。敗北したメキシコは領土の約半分を失った^(ウ)。その後メキシコは自由主義派と保守派の対立が激化して内戦に陥り、ヨーロッパ諸国からの軍事介入^(エ)を受けた。

問1 下線部(ア)に関して、1803年にフランスから買収したのはどこか。

- a オレゴン b ルイジアナ c フロリダ d ジョージア

問2 下線部(イ)に関する記述で誤っているものはどれか。

- a 当初メキシコ政府は、同地へのアメリカ系住民の移住を奨励していた。
b 1830年代前半にアメリカ系住民の間でアメリカ合衆国への併合を正当化する「明白な天命」が唱えられるようになった。
c アメリカ系住民は1836年、テキサス共和国の独立を宣言した。
d テキサス共和国の要請を受けたアメリカ合衆国政府は、1845年に同地を併合した。

問3 下線部(ウ)に関して、アメリカ合衆国がこの戦争で獲得した領土に含まれない現在の州はどれか。

- a ネヴァダ b アリゾナ c ユタ d インディアナ

問4 下線部(ニ)に関する記述として誤っているものはどれか。

- a メキシコの債務不履行を理由にフランス、イギリス、スペインが軍を送った。
- b ナポレオン3世は、オーストリア皇帝の弟マクシミリアンをメキシコ皇帝に据えた。
- c 帝政を認めないマデロら自由派は各地で武装闘争を展開し、アメリカ合衆国もこれを支援した。
- d フランスの軍事介入が終了した後、勢力争いが起こり、政権を奪取したディアスが独裁体制を敷いた。

(II) 南北戦争後、アメリカ合衆国はめざましい経済発展を遂げた。広大な国土を結ぶ水路、鉄道、通信網が整備され、(1)年には最初の大陸横断鉄道が開通、(2)年には政府によってフロンティアの消滅が宣言された。この頃からアメリカ合衆国のラテンアメリカ政策は帝国主義的色彩を強めていく。とくに裏庭と称されるカリブ海地域においては、アメリカ＝スペイン戦争を起こしてキューバを保護国化し(3)を併合した後、武力の威嚇によって政策目的を達成する棍棒外交を展開した。しかし世界恐慌後にブロック経済の形成が進むと、^(ア)アメリカ合衆国は、ラテンアメリカを自国の経済圏に取り込む必要から、内政干渉を控える善隣外交に転じる。しかし一方、ラテンアメリカ諸国では世界恐慌による経済不振で社会不安が高まったことを受けて、民族主義的で反米的な政権も誕生した。^(イ)

問5 空欄(1)に入る年はどれか。

- a 1869 b 1874 c 1879 d 1884

問6 空欄(2)に入る年はどれか。

- a 1885 b 1888 c 1890 d 1898

問7 空欄(3)に入る地名は何か。

- a パナマ b プエルトリコ c ドミニカ d ニカラグア

問8 下線部(オ)に関して、この政策を進めた大統領は誰か。

- a フーヴァー b セオドア＝ローズヴェルト
c タフト d マッキンリー

問9 下線部(カ)に関する記述として、誤っているものはどれか。

- a イギリスは1932年、オタワ連邦会議を開き、連邦内における特惠関税協定を結んだ。
b イギリス連邦のスターリング＝ブロックに対抗して、アメリカ合衆国は南北アメリカ大陸にドル＝ブロックを形成した。
c フランスはイギリスに先んじて金本位制を停止し、フラン＝ブロックを形成した。
d ブロック経済化は自由貿易を崩壊させ、ブロック間の摩擦を生み出して、第二次世界大戦の遠因となった。

問10 下線部(キ)を進めた大統領が国内で進めた政策は何と呼ばれるか。

- a ニューフロンティア b 革新主義
c ニューディール d 新自由主義

問11 下線部(ク)に関連して、この時期に石油産業の国有化など民族主義的政策をとったメキシコの大統領は誰か。

- a カルデナス b カランサ c サパタ d パティスタ

(Ⅳ) 冷戦期に入ると、アメリカ合衆国は共産主義の浸透を防ぐため(4)年にラテンアメリカ諸国との共同防衛の枠組みとして米州機構(OAS)を発足させ、左派政権に対しては転覆や反政府勢力への軍事支援も辞さない強硬姿勢をとるようになった。(5)年にキューバで革命政権が成立し、アメリカ系企

業を国有化すると、アメリカ合衆国は国交を断絶し、反革命勢力を支援して転覆を図った。そのため両国の対立は決定的となった。1960年代には、開発の遅れが共産主義への支持を生み出すとの考えのもと改革を条件とする経済援助がラテンアメリカ諸国に対して実施されたが、芳しい結果は得られなかった。60年代半ばから70年代初頭にかけて、ラテンアメリカ諸国では、アメリカ合衆国の支援を受けた反共軍事政権が次々と成立した。70年代後半に軍事政権による過度な人権侵害が問題になると、そのような政権に対しては援助を制限・停止する政策もとられた。しかしニカラグアで革命政権が成立し、アフガニスタン侵攻を機に米ソ対立が激化すると、レーガン政権は強硬な反共路線に転じた。

問12 空欄(4)に入る年はどれか。

- a 1948 b 1950 c 1952 d 1954

問13 下線部(ケ)に関して、1950年代にアメリカ合衆国の介入によって左派政権が崩壊した国はどれか。

- a チリ b ドミニカ c グアテマラ d ニカラグア

問14 空欄(5)に入る年はどれか。

- a 1953 b 1955 c 1957 d 1959

問15 下線部(コ)に関して、以後の展開に関する記述として誤っているものはどれか。

- a カストロはキューバ革命の社会主義的性格を宣言した。
b 米州機構(OAS)はキューバを資格停止にした。
c ソ連がキューバにミサイル基地を建設すると、ジョンソン大統領が撤去を要求してキューバを海上封鎖した。
d キューバは米ソの代理戦争の一端を担うようになり、アンゴラに兵を派遣した。

問16 下線部(甲)の政策は何と呼ばれるか。

- a 偉大な社会計画 b 進歩のための同盟
- c 人権外交 d 新思考外交

問17 下線部(シ)に関して、選挙で成立した社会主義政権をクーデタで転覆したチリの軍人は誰か。

- a ペロン b アジェンダ c ヴアルガス d ピノチェト

問18 下線部(ス)を進めた大統領は誰か。

- a ニクソン b フォード c カーター d クリントン

問19 下線部(セ)の革命によって失脚した政治家は誰か。

- a ソモサ b パテイスタ c プリモ＝デ＝リベラ
- d マルコス

問20 下線部(ソ)に関する記述として誤っているものはどれか。

- a この政権は「強いアメリカ」を掲げた。
- b アルゼンチンが占領したフォークランド(マルビナス)諸島を奪回した。
- c ニカラグアの革命政権を打倒するため、反政府組織コントラを支援した。
- d グレナダに軍事侵攻して左派政権を倒し、親米政権を樹立した。

3 中国史上では統一帝国の時代と分裂時代とを交互に繰り返してきた。それを大まかにまとめたものが下の表である。殷・西周時代は除外する。「状況」欄には分裂期か統一期かの特徴を記し、「持続年数」欄には概数を記している。また「統一期」とは、ある王朝が全国を統一していた期間のことで、王朝が成立した後の期間ではない。この表について、以下の問(1～8)に答えなさい。解答は選択肢(a～e)あるいは(a～h)から適するものを選びなさい。

時代・王朝	状況	持続年数
春秋・戦国	分裂期Ⅰ	550
秦・漢	統一期Ⅰ	ア
魏・晋・南北朝	分裂期Ⅱ	イ
隋・唐	統一期Ⅱ	320
五代十国・宋・遼・金	分裂期Ⅲ	370
元・明・清	統一期Ⅲ	ウ

問1 「持続年数」欄の(ア～ウ)に入る数値は何か。もっとも適するものをそれぞれ1つずつ選びなさい。

- ア a 400 b 420 c 440 d 460 e 480
 イ a 280 b 310 c 360 d 370 e 400
 ウ a 580 b 610 c 640 d 670 e 700

問2 「分裂期Ⅰ」の春秋時代は周王朝の存在を認めつつ、諸侯が覇権を争った時代である。そうした環境で生まれた思想は何か。もっとも適するものを1つ選びなさい。

- a 中華思想 b 無為自然 c 合従連衡 d 勤皇佐幕
 e 尊王攘夷

問3 「統一期Ⅰ」の秦・漢は中央集権制を確立したが、それは秦の始皇帝—漢の高祖—武帝の三段階を経て達成されたものであった。これに関する次の文のうち、誤っているものを2つ選びなさい。

- a 秦は斉・燕など六国を滅ぼして統一を成し遂げた。
- b 始皇帝は郡県制を施行して中央集権の基礎とした。
- c 始皇帝は焚書坑儒を断行して思想・言論の統制をおこなった。
- d 始皇帝は万里の長城を連結・修築したが、その死後陳勝・呉広の反乱を招いた。
- e 秦末の混乱の際、高祖は項羽と覇権を争ったが、当初はその支配下に入っていた。
- f 高祖は急激な中央集権制を修正するため、封建制と郡国制を併用した。
- g 武帝は呉楚七国の乱を平定して中央集権制を強化した。
- h 武帝は統一国家のシンボルともなる、最初の元号を制定した。

問4 「分裂期Ⅱ」の経緯について述べた次の文のうち、誤っているものを2つ選びなさい。

- a 司馬炎は魏の禪譲によって晋を建て、呉を滅ぼすことで一時的な統一を達成した。
- b 晋の統一時代は36年ほどしか続かず、匈奴の侵入によって南遷を余儀なくされた。
- c 五胡十六国の乱立、抗争の中で有力になっていったのは鮮卑族であった。
- d 五胡十六国を最終的に統一したのは北魏の孝文帝であった。
- e 華北統一以後、95年ほどで北魏は東西に分裂した。
- f 西魏を継承した北周は、東魏にとって代わった北斉を併合した。
- g 六朝時代ともよばれるように、江南では呉・東晋など六つの王朝が交代した。
- h 北周の外戚だった楊堅は陳を征服した後、隋を建て、統一を達成した。

- 問5 「統一期Ⅱ」の後半期には、分裂期の始まりともいえる大反乱があった。この事情について書いた次の文のうち、誤っているものを2つ選びなさい。
- a 大規模な反乱の始まりは7世紀半ばに勃発した安史の乱であった。
 - b 安史の乱以前から節度使が設置されたが、周辺異民族対策が主な目的であった。
 - c 安史の乱が起こると、節度使の勢力は強くなり、藩鎮ともよばれるようになった。
 - d 安史の乱に際してウイグルは唐を援助したが、その後彼らの勢力は強大化した。
 - e 吐蕃は安史の乱に乗じて、一時、長安を占拠した。
 - f 唐の滅亡の契機となったのは9世紀に起こった黄巢の乱だった。
 - g 10年ほど続いた黄巢の乱は、突厥系藩鎮などの軍事力で鎮圧された。
 - h 黄巢軍の武将だった朱元璋は唐を滅ぼして梁を建てた。

- 問6 「分裂期Ⅲ」について論じた次の文のうち、誤っているものを2つ選びなさい。
- a 北宋は君主独裁体制を築き、170年ほど続いた。
 - b 北宋は科挙を整備し、文治政治を進めた専制国家である。
 - c 北宋建国以前に契丹族の遼が成立していた。
 - d 北宋初期に金が建国し、宋に圧力をかけていた。
 - e 北宋の西方で西夏が建国し、宋を苦しめていた。
 - f 朝鮮半島では北宋成立以前に高麗が建国し、官僚政治体制を整えていた。
 - g チベットでは唐代から続く吐蕃が勢力を維持し、宋の支配に影響を与えていた。
 - h 雲南地域で南詔の後を継いだ大理が建国し、勢力をふるっていた。

問7 「統一期Ⅲ」では、元・明の末期に反乱が起こり、混乱を極めた。これらの反乱に関する次の文のうち、誤っているものを2つ選びなさい。

- a 紅巾の乱は白蓮教などの宗教結社を中核勢力としていた。
- b 白蓮教は弥勒仏下生を説き、以前から禁圧されていた。
- c 紅巾の乱のなかからのちの太祖が台頭し、明を建てた。
- d 洪武帝は三省六部を直轄化し、皇帝独裁体制を強化した。
- e 永楽帝は、北京遷都、大運河修復などの事業をおこなって国内の支配体制を固めた。
- f 李自成は反乱軍の首領として、1644年に北京を占領した。
- g 明の武将であった呉三桂は李自成の乱の鎮圧に成果をあげた。
- h 呉三桂は清に降り、藩王に任命されたが、雍正帝の支配強化に対して反乱を起こした。

問8 「統一期Ⅲ」の清は史上最大の領域支配を実現した。次の地域のうちこの領域に含まれないのはどれか。もっとも適するものを1つ選びなさい。

- a 東トルキスタン b ジュンガル c モンゴル d 青海
- e ソグディアナ

4 世界の文化遺産に関する以下の文章(A～E)を読んで、問(1～6)に答えなさい。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

(A) アンコール遺跡は、東南アジアにある。この遺跡の中心のアンコール=ワットは、12世紀前半に(1)により造営された。アンコール朝は、9世紀初頭から26代の王を数える(2)の王朝である。ジャヤヴァルマン7世の時代が最後の黄金期といわれ、13～14世紀になると、アンコール朝は衰退期をむかえる。この頃から、タイ人の王朝が台頭し、15世紀には、(3)の支配によりアンコール朝は崩壊した。

(B) アグラ城塞は、インドにある。アグラは、1598年以降の約50年間ムガル帝国

- の首都であった。この帝国の基礎を築いたパープルは、1526年に、(4)の戦いでロディー朝の軍に勝利をおさめた。ムガル帝国の実質的な建国者は、第3代皇帝(5)である。アグラは、(5)が建設した新都市であった。(5)は、ヒンドゥー教徒とイスラーム教徒との融合をはかり、非イスラーム教徒に課せられていた人頭税である(6)を廃止した。
- (C) ロードスの中世都市は、(7)騎士団が築いた城塞都市である。(7)騎士団は、第1回十字軍の際に結成され、聖地守護にあっていた。イスラーム勢力が、再び聖地を奪回するなど盛り返してくると、(7)騎士団も、キプロス島さらにはロードス島へと拠点を移した。(8)のもとで最盛期を迎えたオスマン帝国によってロードス島を追われると、(7)騎士団は、1530年に皇帝(9)からマルタ島を与えられた。
- (D) (10)大聖堂は、スペインにあり、メスキータ(スペイン語でモスクの意味)ともよばれる。それは、8世紀に(11)により建立された大モスクが、13世紀に(10)がキリスト教徒に奪回されても壊されず、その後にキリスト教の教会に改変されたものである。イスラーム教徒からイベリア半島の領土を奪回しようとしたキリスト教徒の戦いは、レコンキスタとよばれ、(12)年のグラナダ陥落により完了した。
- (E) (13)大聖堂は、フランスの代表的なゴシック聖堂である。この聖堂の建設事業は1220年に開始したとされ、その大半は13世紀に建立された。この時期に第6回・第7回十字軍を主導した(14)は、敬虔^{ひん}なことで知られ、聖王とよばれた。(13)においては、(15)年に、フランスとイギリスの間で講和条約が結ばれ、第2回対仏大同盟が解消された。

問1 空欄(1～15)に入る語句はどれか。

- (1) a カンピユセス2世 b ジャヤヴァルマン2世
 c スールヤヴァルマン2世 d ダレイオス3世
 e チャンドラグプタ1世
- (2) a クメール人 b シンハラ人 c チャム人 d ビュー人
 e モン人

- (3) a アユタヤ朝 b シンガサリ朝
 c スコータイ朝 d チャールキヤ朝
 e ラタナコーシン(チャクリ)朝
- (4) a アンカラ b ニコポリス c パーニーパット
 d ブラッシー e モハーチ
- (5) a アウラングゼーブ b アクバル c シャー=ジャハーン
 d ティムール e ナーナク
- (6) a ジズヤ b ジャーギール c シャリーア
 d ハラージュ e マンサブダール
- (7) a カラトラバ b サンチャゴ c テンプル d ドイツ
 e ヨハネ
- (8) a セリム3世 b スレイマン1世 c バヤジット1世
 d マフムト2世 e メフメト2世
- (9) a カール5世 b ハインリヒ4世 c フランツ2世
 d フリードリヒ2世 e ヨーゼフ2世
- (10) a コルドバ b サンチャゴ=デ=コンポステラ c セビリヤ
 d トレド e レオン
- (11) a 後ウマイヤ朝 b サーマーン朝 c トゥールーン朝
 d ファーティマ朝 e ブワイフ朝
- (12) a 1402 b 1455 c 1479 d 1485 e 1492
- (13) a アミアン b シャルトル c プールジュ d ランス
 e ルーアン
- (14) a オットー1世 b シャルル2世 c フィリップ4世
 d ルイ9世 e ロタール1世
- (15) a 1795 b 1799 c 1802 d 1805 e 1807

問2 東南アジアにおいては、16世紀後半に、ビルマ人の王朝が、タイ・ラオスまでを支配下におく広大な王国に発展した。その王朝はどれか。

- a コンバウン(アラウンパヤー)朝
- b タウンゲー(トゥンゲー)朝
- c チョーラ朝
- d バガン朝
- e パッラヴァ朝

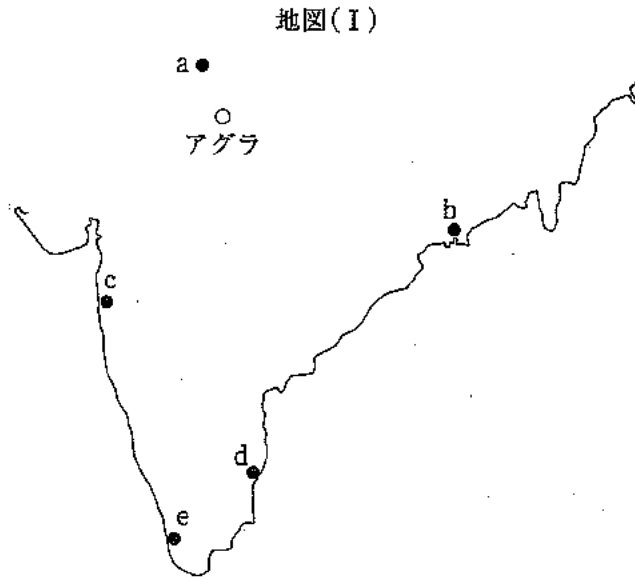
問3 インド=イスラーム文化にもみられるように、イスラーム文明は、各地の地域的・民族的特色を加えながら、いたるところで受け入れられた。イスラーム文明における業績に関する説明として、誤っているものはどれか。

- a イスラーム学者のガザリーが、スンナ派神学の確立に貢献した。
- b イブン=シーナー(アヴィケンナ)が、『医学典範』を著した。
- c イブン=ハルドゥーンが、『世界史序説』を著した。
- d イブン=ルシュド(アヴェロエス)が、『政治学』を除くプラトンの全著作を注釈した。
- e フワーリズミーが、インド数字を導入してアラビア数学を確立した。

問4 第1回十字軍から第7回十字軍の間(1096~1270年)に起こった次の出来事を年代順に並べたとき、3番目にくるものはどれか。

- a アイバクが、デリー=スルタン朝の最初となる奴隷王朝を建てた。
- b イギリス議会の起源とされる議会が、シモン=ド=モンフォールにより招集された。
- c 教皇権隆盛の頂点にたつことになるインノケンティウス3世が、ローマ教皇に即位した。
- d バトゥ率いるモンゴル軍が、現ポーランド領のリーグニッツ近郊において、ドイツ・ポーランド連合軍を破った。
- e 完顔阿骨打(ワンヤンアグダ)が、中国東北地方にツングース系女真人の王朝を建国し、皇帝を称した。

問5 空欄(4)は、地図(I)上のどこにあるか。



問6 空欄(13)は、地図(II)上のどこにあるか。

